

29年5月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 5月1日～ 29年5月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
5月分の回答企業数は15社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/5月	6月	7月
入荷動向	スギ	5.6	5.6	11.1
	ヒノキ	14.3	14.3	0.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 75.0	△ 25.0	△ 25.0
消費動向	スギ	5.6	5.6	5.6
	ヒノキ	14.3	21.4	21.4
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 6.3	△ 6.3	△ 6.3
	ヒノキ	△ 14.3	△ 21.4	△ 21.4
	カラマツ	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0
	トドマツ	25.0	50.0	50.0

・スギ製材用原木の入荷動向は、3カ月連続で増加。ヒノキは5月、6月の増加が7月は横ばいに。カラマツとトドマツは3カ月連続で減少。

・スギ・ヒノキ製材用原木の消費動向は、3カ月連続で増加。カラマツ、トドマツは3カ月連続横ばいで推移。

・スギ、ヒノキ製材用原木の在庫動向は3カ月連続の減少。カラマツは3カ月連続で大幅な減少。トドマツは3カ月連続で増加。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	29/5月	6月	7月
スギ	△ 12.5	△ 6.3	6.3
ヒノキ	△ 7.1	7.1	14.3
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ製材用原木の価格動向はやや強含み、ヒノキは強含み。カラマツ、トドマツは保含いで推移。

モニターからのコメント

（原木荷動き）

・カラマツ、トドマツの5月入荷はある程度良で増加する見込み。トドマツは6月から増加予定。生産量は横ばいで推移。カラマツの使用ウエイトが75%に対しトドマツの使用ウエイトが25%、在庫は半々なのでバランスが悪い（北海道）。

・5月は国有林の入山規制があるため、全体のトドマツ丸太の入荷量は少ない。消費は5,000m³/月でフル生産の状態。在庫は1カ月を切る状況で不安で一杯だ（北海道）。

・スギ、ヒノキの消費量に合わせて入荷するので変動はない。生産量は変わらず。在庫は原木が痛む時期なので仕入を減らし、劣化しそうな原木から消費していく（近畿）。

・スギ、ヒノキ丸太とも思いのほか入荷量が増えず。消費は特に変化なし。在庫はヒノキ丸太が少なめ（中国）。

・入荷は在庫が多いので絞りたい。消費動向は5月は稼働日数が少ないが、6月、7月は消費を増やす。在庫は夏場に向けて減らしていく（中国）。

・スギ丸太の荷動きは、特に当社の主要仕入品目である14～20cm×3m丸太はますます減少、ヒノキについては変わらない。消費及び在庫については、入荷動向に比例している（中国）。

・入荷動向は、原木市場によって多少ばらつきがある。消費は際立った変化はないのでは。一部合板の動き次第（九州）。

・住宅着工は横ばいで動いてるようだ（九州）

・天候良好、出材順調、在庫は変わらず（九州）。

(原木価格)

- ・トドマツ丸太は、基本的には価格が安定している（北海道）。
- ・スギ、ヒノキともに目立った価格変動はないと思うが、材が痛みやすい時期なので多少価格が下がるかもしれない（近畿）。
- ・特に値下げを要求する場合にはないと考える（中国）。
- ・ヒノキ丸太は、5月はやや下落、6月横ばい、7月はやや上昇すると見込んでる（中国）。
- ・スギ丸太は、なかなか原木多量感がなく、値戻しには時間がかかりそうだ（九州）。

29年5月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/5月	6月	7月
生産動向	スギ	12.5	12.5	6.3
	ヒノキ	28.6	28.6	21.4
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
出荷動向	スギ	12.5	18.8	12.5
	ヒノキ	35.7	42.9	28.6
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 5.6	△ 5.6	0.0
	ヒノキ	△ 28.6	△ 14.3	△ 7.1
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ・ヒノキ製材品の生産動向は3カ月連続で増加。カラマツ及びトドマツは3カ月連続で横ばいで推移。

・スギ・ヒノキ製材品の出荷動向は、3カ月連続で増加。カラマツ及びトドマツは3カ月連続で横ばいで推移。

・スギ製材品の在庫動向は、5月、6月のやや減少が7月は横ばいに。ヒノキは3カ月連続で減少。トドマツは3カ月連続で横ばい。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		29/5月	6月	7月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 6.3	△ 6.3	△ 6.3
	柱角 KD12×3	△ 7.1	△ 14.3	△ 14.3
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	0.0	0.0	0.0
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	7.1	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	△ 10.0	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	8.3	8.3
柱角 KD12×3		0.0	8.3	8.3
土台角 10.5×4		16.7	16.7	16.7
土台角 12×4		0.0	0.0	0.0
通し柱 12×6		0.0	0.0	16.7
ラミナ		0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ製材品の出荷価格動向は、KD柱角が弱含。その他の製品は総じて保合いで推移。

・ヒノキKD柱角10.5・12×3及び土台角10.5cm×4mは強含。そのほか製品は保合いで推移。

・カラマツ梱包仕組み板及びカラマツラミナ、トドマツサンギは保合いで推移。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

- ・生産動向はフル生産が続いており、出荷に追われて堅調。
- ・スギ、ヒノキ製品の生産は、5月はまだ動きが鈍いが、6月以降に少し動くことを期待。出荷動向は、連休前の荷動きはなく出荷は静か。6～7月は別注品のため少し忙しい（近畿）。
- ・スギ柱角（KD）、間柱、ヌキ、ラミナは価格変動なし。ヒノキ柱角（KD）、土台角は取扱量少なく変動なし（近畿）。
- ・生産は、荷動きが決して衰えていないので稼働率の向上を目指す。決まった販路での出荷はまずまず。ヒノキ在庫は少なめ（中国）。
- ・ヒノキ製材品の生産は、やや増加で夏場に向け在庫が増やす。出荷は5月はへこむが、6月から7月は増える見込み（中国）。
- ・スギ丸太の入荷が少なく、ヒノキの入荷が順調なので、必然的にヒノキ製材の割合が増えてくる。ヒノキ製材品は、銘建工業がヒノキ製材から撤退した影響が出始めて注文が増えだした。スギは相変わらず需要が多いが、ない袖は振れないという状況（中国）。
- ・残業・新機械の導入により、製品の出荷は順調（九州）。

(製材品出荷価格動向)

- ・トドマツ栈木の価格は少しずつ上向きのところであるが、全体としてはもう一歩。値上げ予定はかなりある模様（北海道）。
- ・製材品の出荷価格は、特に変動なし（近畿）。
- ・スギ12cm角×3mの受注が減少する見込み。ヒノキ12cm角×4m、12cm角×3mを除き、大きな単価の変化はないと予想（中国）。
- ・ヒノキ3m、10.5cm柱角以外のヒノキ製品は、5月後半よりやや上昇する見込み（中国）。
- ・スギは変化なし。ヒノキ3m、10.5cm角が少し強含み（中国）。

29年5月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/5月	6月	7月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入、消費、在庫は3カ月連続で横ばい推移。
 ・NZラジアータの仕入、消費、在庫は3カ月連続で横ばい推移。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/5月	6月	7月
米マツ丸太	0.0	0.0	50.0
NZラジアータ丸太	0.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の購入価格は、5月、6月の保合いから7月は強含み。
 ・NZラジアータの購入価格動向は5月の保合いが6月、7月は強含みに。

モニターからのコメント

(原木荷動)

・米マツの入荷、消費、在庫とも例年より需要が多いように思われる。よって横ばいにした(中国)。

(原木価格動向)

・ニュージーランド丸太FRTが上昇中だ(中国)。

29年5月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/5月	6月	7月
生産動向	米マツ製材品	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	0.0	50.0	100.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	0.0	△ 50.0	100.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産動向は、3カ月連続で横ばいで推移。出荷動向は、5月横ばい、6月増加、7月大幅に増加。在庫は6月の減少が7月は増加へ。

・NZラジアータ製材品の荷動きは、生産、出荷、在庫とも3カ月連続で横ばい。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		29/5月	6月	7月
米マツ平角		0.0	0.0	0.0
米マツ正角		0.0	0.0	0.0
米マツ小割		0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)		0.0	0.0	0.0
NZ土木用材		0.0	0.0	0.0
その他		—	—	—

・NZ梱包材割板、割角及び土木用材は3カ月連続保合いで推移。

・米マツ製材品の出荷価格は、平角、正角、小割ともに3カ月連続保合いで推移。

モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

- ・生産、出荷、在庫とも例年より需要が多いように思われる（中国）。

(製材品出荷価格動向)

- ・梱包材（割板及び割角）、土木用材ともに、出荷価格は現状維持（中国）。